

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

全力！ ICHIOKA ～進路実現への取組み 100%、部活動への取組み 100%、学校行事と自主活動への取組み 100%～

- 多様性を理解し、主体的に判断し、他者と協働できる力をもって“AIとの共生時代を元気よく生き抜く生徒”を育てる。
- 1 少人数授業を特色とする全日制普通科単位制で、一段高いレベルの希望進路を実現する。
 - 2 伝統の部活動と主体的な学習の両立を通じ、自分で判断する力、自分で考えて行動する力、最後まで諦めない力を育む。
 - 3 学校行事と自主活動を通じ、創造する力と心の豊かさを育む。

2 中期的目標

1 少人数授業を特色とする全日制普通科単位制で、一段高いレベルの希望進路を実現する。

(1) 生徒が安心して国公立大学や難関私立大学をめざすことができる環境をつくる。

- ア 授業・講習・個人指導・資格試験等のバランスのとれた教育課程マネジメントのもと、生徒の第一希望の進路を実現する。
- イ 進路および履修のガイダンス機能を高め、生徒一人ひとりの自己理解と意思決定を支援する。特に3年次においては、模擬テスト等のデータを活用し生徒の状況に合った指導を行う。
- ウ 全日制普通科単位制が一段高いレベルで希望進路を実現できる課程であることを情報発信し、中学生の進路選択に資する。

(2) 知識・技能の定着を図るとともに、思考力、判断力、表現力を育む授業を行う。

- ア 思考力・判断力・表現力を育むことをテーマとした公開授業や授業研究の機会を設け、全ての教員の授業力を高める。
- イ 進路指導や学力向上に特色ある取組みを行っている学校の情報を収集・共有し学校経営に反映する。
- ウ 日々の学習態度を整え、読解力をつけるため、朝の読書時間を設け実践する。

(3) 安全で安心な学校をつくる。

- ア 年度の早い時期に生徒面談を行い、担任団・学年団で生徒情報の共有と共通理解を図り、適切な支援と不登校の未然防止を行う。
- イ 学年会議や職員会議で生徒情報の共有と共通理解を図り、必要に応じ「個別の支援計画」を立て適切な支援を行う。
- ウ 生徒の出欠や遅刻状況を「見える化」し、支援を必要とする生徒に適切な支援を行う。

※進路実績 国公立大学合格者数を毎年10-20%引き上げ、R04には50名にする。(H29 36名 H30 41名 R01 25名 3/9現在)

※生徒向け学校教育自己診断「授業の分かりやすさ」の肯定的回答率を毎年3-4%引き上げ、R04には85%にする。(H29 74% H30 74% R01 74%)

※年間30日以上欠席する生徒数を毎年2-3名減らし、R04には10名以下にする。(H29 36名 H30 34名 R01 16名)

2 伝統の部活動と主体的な学習の両立を通じ、自分で判断する力、自分で考えて行動する力、最後まで諦めない力を育む。

(1) 部活動と主体的な学習が両立する環境をつくる。

- ア 部活動が安全・円滑に運営されるよう適切な活動時間の設定や指導者の確保など環境の整備に取り組むとともに、生徒が主体的に自学自習する習慣を身に付け、部活動と学習活動が両立するメリハリの効いた環境をつくる。

(2) 部活動を通じ、自分で判断する力、自分で考えて行動する力、最後まで諦めない力を育む。

- ア 部活動を通じ、100%の力を発揮できる心身を育成する。
- イ 部活動において他校生との交流や地域行事への参加をすすめ、地域に愛される学校をつくるとともに生徒の自己肯定感を高める。

※生徒向け学校教育自己診断「進路実現への取組み」の肯定的回答率を毎年3-4%引き上げ、R04には85%にする。(H29 69% H30 69% R01 75%)

※生徒向け学校教育自己診断「部活動への取組み」の肯定的回答率を毎年2-3%引き上げ、R04には95%にする。(H29 86% H30 86% R01 88%)

3 学校行事と自主活動を通じ、創造する力と心の豊かさを育む。

(1) 総合的な学習・探究の時間を充実させる。

- ア ユネスコスクールとして国際、地域、防災、人権の学習を通じ多様性を理解し、他者と協働して物事に取り組む力を育成する。また、その一環として地域の文化・産業を体験する修学旅行を企画し実施する。
- イ 総合的な学習・探究の時間において学校としてのアーカイブを整備し、より効果的に探究に取り組める体系を確立する。

(2) 学校行事や自主活動への主体的な取り組みをすすめ、生徒の達成感や自己肯定感を高める。

- ア 体育祭、文化祭、合唱コンクール等を通じ、他者と主体的に協働できる生徒を育てる。
- イ 文楽・落語・能狂言等の古典芸能鑑賞やクラシック音楽鑑賞など、特別で上質な行事体験を通じ、芸術芸能文化に関する豊かな感性を養う。
- ウ 海外での語学研修や大学等が実施するコンテストなど自主活動への参加をすすめ、多様性への理解や表現力・コミュニケーション能力の向上を図る。
- エ その他校外の機関や団体と連携し、生徒にとって有益な活動の機会を提供する。

※生徒向け学校教育自己診断「多様性理解の充実度」の肯定的回答率を95%に引き上げ、R04には95%を維持安定させる。(H29 92% H30 92% R01 93%)

※生徒向け学校教育自己診断「総合的探究の時間の充実度」の肯定的回答率を毎年2%程度引き上げ、R04には95%にする。(H29 85% H30 85% R01 90%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和2年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>学校教育自己診断の生徒の肯定的回答率 ()内は前年実績</p> <p>■全21項目平均 81.1% (80.2%)</p> <p>■3%以上、上下動した項目</p> <p>先生は教え方に様々な工夫をしている 81.4% (75.6%)</p> <p>担任の先生以外にも相談できる先生がいる 61.6% (66.0%)</p> <p>先生はいじめについて真剣に対応してくれる 82.5% (78.7%)</p> <p>命を大切にし違いを認め合い共によく成長できる学校だ 85.7% (81.7%)</p> <p>地域交流やボランティア活動に参加する機会がある 33.2% (43.5%)</p> <p>先生は生徒のために授業やその他の仕事をしている 87.4% (82.7%)</p> <p>校長先生の話は簡潔で分かりやすい 87.8% (84.6%)</p> <p>教室・運動場は授業・活動しやすいよう整備されている 77.9% (70.8%)</p> <p>分析: 地域交流計画はほとんどが中止となり活動できなかったことが影響したものと思われる。</p>	<p>■第1回 (7月31日)</p> <ul style="list-style-type: none"> 感染症対策ガイドラインやマニュアルを生徒に十分に理解させ実践してほしい。 感染症に罹患した生徒の心のケアを十分に行ってほしい。 新型コロナウイルスの影響で実施できなかった計画については、しっかりと状況を記載してほしい。 <p>■第2回 (11月27日)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校行事の実施あるいは変更の際に、関係部署の指示に加え、専門家の知見等も踏まえ、生徒・保護者に理解しやすく説明し、全員一丸となって対応してほしい。 学校教育自己診断アンケートに、何らかの形で新型コロナウイルス対応についての意見・感想が取り込めるようにしたらどうだろうか。 <p>■第3回 (2月18日)</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度は難しかったが、地域交流やボランティア活動機会を一定確保してほしい。 来年度も学年当初の新入生ガイダンスや指導をよろしく願います。 グループウェアの平時での活用を学校全体で更にすすめてほしい。 すべての教育活動が最後には「希望進路実現のための学習」につながるよう取り組んでほしい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

(※ 学校教育自己診断に基づくチェック項目)

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 少人数授業を特色とする全日制普通科単位制で、一段高いレベルの希望進路を実現する</p>	<p>(1) 生徒が安心して国公立大学や難関私立大学をめざすことができる環境をつくる。</p> <p>(2) 知識・技能の定着を図るとともに、思考力、判断力、表現力を育む授業を行う。</p> <p>(3) 安全で安心な学校をつくる。</p> <p>働き方改革の推進 ※教員のモチベーション向上にむけての取組み</p>	<p>(1) ア 授業・講習・個人指導・資格試験等をバランス良く計画的に実施し、生徒の第一希望の進路を実現する。</p> <p>イ 進路・履修ガイダンス機能を高める。</p> <p>ウ 普通科単位制の魅力を情報発信し、中学生の進路選択に資する。</p> <p>(2) ア～イ ・他校の取組みを研究し、公開授業や授業研究を通じ、教員の授業力を高める。</p> <p>ウ 学級文庫を充実させ、朝の読書時間を通じ思考力の基盤となる幅広い教養と読解力を育む。</p> <p>(3) ア～イ ・学年、保健室、教育相談、生徒指導担当者の情報共有の機会を設けるとともに「個別の支援計画」の作成により、組織的な情報共有を図り、適切な生徒対応と支援を行う。</p> <p>ウ 遅刻指導の方針を明確にし、遅刻や欠席のない自律的な生活習慣をもった生徒を育成する。</p> <p>教育課程マネジメント等を進めるなか、教職員が互いに資質を高め合う同僚性の高い職場環境を作り、時間外勤務時間を削減に努めるとともに、意欲を持って生徒と向き合える時間を拡充し、進路実現を支援する。</p>	<p>(1) ア 入学時の生徒の学力と過去5年の実績を考慮し、下記の人数を目標とする。 【3/9 現在】 国公立大学 40名 (R1 25名) 難関私立大学 50名 (R1 42名)</p> <p>イ 進路指導やガイダンス充実度 85%超。※問16 (R01 87%)</p> <p>ウ 志願倍率 1.1-1.2倍。 (R01 1.11倍)</p> <p>(2) ア～イ ・市岡高校の授業は分かりやすくなるためになる。※問3 80% (R01 74%) ・先生は教え方に様々な工夫をしている。※問4 80% (R01 76%) ・生徒授業アンケートの5つの評価軸の学校平均値 3.3超 (R01 3.35)</p> <p>ウ 朝読関連の意識調査 [知識の幅が広がった] 35% (R01 31%) [勉強に役立った] 20% (R01 16%)</p> <p>(3) ア～イ ・不登校(年間連続30日以上)の欠席生徒数を前年比10%減とする。(R01 16名)</p> <p>ウ 遅刻生徒の延べ人数を前年比10%減とする。(R01 3270名)</p> <p>ストレスチェックの職場評価報告書の総合健康リスク値を大阪府教育庁平均101以下に維持安定させる。(R01 86)</p>	<p>国公立大学 26名 (○) 難関私立大学 58名 (◎) 延べ124名 *途中で昨年度の実績を上回った。</p> <p>85.2% (○) 学習指導体制と同スケジュールを修正中</p> <p>1.03倍 (△) 校外での学校説明会9回 校内での学校説明会2回</p> <p>昨年度数値は上回ったが目標未達。 75.3% (△)</p> <p>81.4% (○) 第2回アンケート学校平均3.31 (○) 校内ICT化でICT活用授業が増加 市岡拡大初任研による教師力アップ グループウェアによるオンライン体制</p> <p>38.4% (○) 8.7% (△) 知識の幅の広がりを実感する生徒は増えたが、それを勉強(成績)と関連付けて考える指導が不足している。</p> <p>不登校32名 (△) 教育相談体制の充実により対応したが、コロナ禍の影響もあり一昨年実績まで増加。 ◆長期入院生徒学習支援(1年生) *パソコン貸出し+リモート授業 (◎)</p> <p>18%減(◎) 校内統一的な指導体制の整備</p> <p>総合健康リスク値 90 (○) *仕事の量的負担は増えたが裁量度が向上した。職場のサポート体制は横ばい</p>

府立市岡高等学校

<p>2 伝統の部活動と主体的な学習の両立を通じ、自分で判断する力、自分で考えて行動する力を育む</p>	<p>(1) 部活動と主体的な学習が両立する環境をつくる。</p> <p>(2) 部活動を通じ自分で判断する力、自分で考えて行動する力、最後まで諦めない力を育む</p>	<p>(1) ア 生徒が主体的に部活動を運営できるよう指導者が支援を行うとともに、ノー・クラブデーの着実な実施など、授業外の学習時間の確保と自学自習の習慣の確立に取り組む。</p> <p>(2)ア～イ ・生徒が主体的に全力で部活動に取り組み、達成感と自己肯定感のもてる環境をつくる。</p>	<p>(1) ア 進路を実現する学習に取り組んでいる。※問2 80% (R01 74.7%)</p> <p>(2)ア～イ ・部活動加入率 90%(R01 83%) ・部活動や体育祭等の自主活動によく取り組んでいる。※問6 80% (R01 88%)</p>	<p>77.4% (△) 前年比+2.7%ではあるが目標未達。 校内での自学自習だけでなく、家庭学習等での取り組みをフォローする体制作り</p> <p>82% (○) 達成できず。だが、コロナ禍で活動が制限されていたにも拘らず、勧誘活動に積極的に取り組み、前年度と同程度の成果を上げた。 88.8% (○) コロナ禍下での実行・開催に工夫 文武両道の学校精神による指導</p>
<p>3 学校行事と自主活動を通じ、創造する力と心の豊かさを育む</p>	<p>(1) 総合的な学習・探究の時間を充実させる。</p> <p>(2) 学校行事や自主活動への主体的な取り組みをすすめる、生徒の達成感や自己肯定感を高める。</p>	<p>(1)ア～イ ・総合的な学習・探究の時間について、生徒の成長が顕著にみられた取り組み及び新たな取り組みについて職員会議で報告研修を行い、成果の共有を通じ学校として質の向上を図る。</p> <p>(2)ア～エ ・体育祭、文化祭、合唱大会等の学校行事や校外での自主活動を通じ、主体的に他者と協働する楽しさを体験させ、協働する力を育成する。</p>	<p>(1)ア～イ ・多様性理解の充実度 90%超 ※問13 (R01 93%) ・総合的な学習・探究の充実度 90%超 ※問14 (R01 90%)</p> <p>(2)ア～エ ・学校行事の満足度 90%超 ※問5 (R01 92%)</p>	<p>95% (○)</p> <p>91% (○) 総合的な学習・探究については、校内での教材のアーカイブ化を充実させ、高い満足度につなぐ</p> <p>文化祭、Ichi 祭、1～2年クラスマッチの開催 92.8% (○) 大阪市立図書館、港図書館とのコラボ企画「市岡生が選ぶ推薦図書」(○) 高大接続事業「大教大/SDGs 探究学習」(○) コロナ禍下での実行・開催に工夫</p>